

今こそ教育の力を ～東書教育賞に寄せて～

代表取締役社長 千石 雅仁



贈呈式にあたり、主催者であります東京書籍を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに

今回も、「東書教育賞」には全国各地の先生方から、140編を超える多くの論文をお寄せいただきました。

その中で、小・中学校のそれぞれの部門で各賞を受賞される先生方に、心よりお祝いを申し上げます。

誠にありがとうございます。

新教育課程のスタートとコロナ禍

受賞される先生方をはじめ、ご応募いただいた論文全体を拝見しますと、学校経営や教育課程全般についてのご研究と並んで、それぞれの教科についてのご実践をまとめた論文を、昨年よりも多くお寄せいただきました。

これは、小学校では既にスタートし、中学校でも今年の4月から全面実施となる新学習指導要領を踏まえて、先生方が各教科で新教育課程の下での実践研究を着々と進められていることの証左であると考えています。

また、「プログラミング教育」や「SDGs」といった、新教育課程で新たに取り入れられ、注目されている内容についても、ご実践の論文をお寄せいただきました。こうした内容は、地球規模の課題の解決に取り組むための重要な視点や方法

であり、次世代を担う子どもたちへの教育プログラムの開発が求められていますが、いち早くこうしたご実践に取り組まれている先生方のお姿に、心強さを感じています。

そして、今年に限って特筆すべきは、やはり「コロナ禍」における教育実践でしょう。昨年は、新型コロナウイルスという目に見えないものとの闘いに明け暮れた一年であり、日本でも3月から5月にかけての学校の一斉休校と緊急事態宣言に伴って、学校から子どもたちの声が消えるという異常事態になりました。しかし、こうした中でも日々試行錯誤を重ね、学びを止めないためのご努力を積み重ねてこられた全国の先生方の奮闘に大きな感銘を受け、教育に携わる企業として、強い刺激を与えていただきました。

加速するICT環境整備と教科書の役割の変化

一斉休校の期間中を中心に、学校と自宅の子どもたちとを結んだオンライン授業の取り組みが全国各地で行われ、国も改正著作権法の施行を1年前倒して、先生方の取り組みを後押ししました。

また、従来は2024年度までに完了する予定だった、子どもたち一人一台の端末整備が大幅に前倒しされ、今年度中にはほぼ整備が終わる状況です。

一人一台の端末整備は、それを使ってどのような学びを保証するかが重要です。文部科学省は、

端末整備と軌を一にする形で、学習者用デジタル教科書の普及促進事業を、来年度から本格的にスタートします。

こうした動きによって、紙の教科書ではなくデジタル教科書が、子どもたちの学びの中心に位置づく日が間もなくやってきますが、東京書籍では、教科書のデジタル化は、単なる様態の変化だけではない、教科書の役割の変化を生み出すと考えています。

既にその変化は始まっています。新しい教科書では、紙面に二次元バーコードを掲載し、そこから動画やプログラムなどの、様々なデジタルコンテンツにアクセスできるようになっており、先生方がご授業で使うだけでなく、子どもたちが自宅からでも自由にアクセスできます。つまり、先生方や子どもたちは、紙の教科書にある内容だけでなく、教科書の外にある情報も使った指導や学習が可能になっているのです。このような、教科書にある学習内容と、外にある様々な情報とを自由に行き来しながら行われる指導や学びは、学習者用デジタル教科書の普及に伴って、より一般的になっていくでしょう。

かつて、「教科書を学ぶ」のではなく「教科書で学ぶ」ことが重要であるという議論がありました。教科書は学びの「対象」ではなく「手段」であるという考え方は、現在では一般的になって、先生方の教育実践のベースになっているものと思います。

しかし、学習者用デジタル教科書の普及によって、教科書の役割は、教科書内外の様々な情報

にアクセスするための「ポータルコンテンツ」へと変化し、「教科書で学ぶ」のではなく、「教科書から学びを広げる」という側面が、より強くなっていくと考えています。

求められる教育の力

東京書籍の創立75周年を記念して創設した「東書教育賞」は、今年で36回目を数えますが、昨年の贈呈式からのこの一年は、歴史的に見ても数奇な一年であったといえるでしょう。コロナ禍によって、日本社会は様々な困難に直面していますが、これに打ち克ち、予測困難な世の中を生き抜く子どもたちを育成するために、今こそ教育の力が求められています。

現在、東京書籍では、新しい教科書の在り方や作り方の検討を進めていますが、紙であってもデジタルであっても、先生方の教育実践と、子どもたちの学びを支えるという、111年に亘って続けてきた教科書作りの不変の目的を達成し続けるべく、今後も力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、ご多用の折に、最終審査をご担当いただきました審査委員の先生方、一次審査をご担当いただきました東京教育研究所主任研究員の先生方をはじめ、ご協力をいただきました多くの先生方に、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

受賞された先生方の、今後の益々のご活躍をご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。